

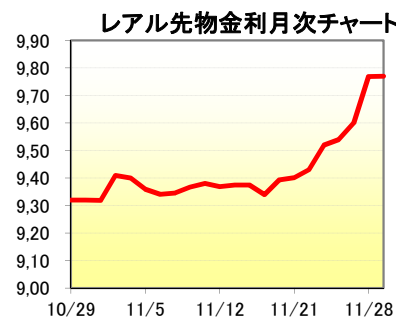
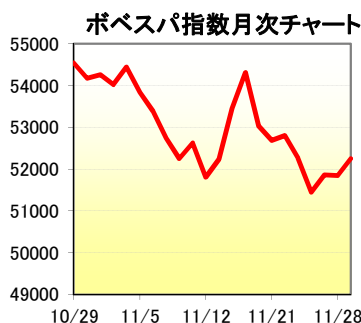
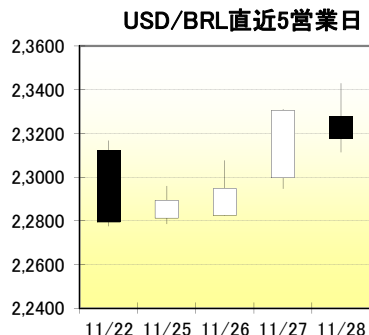
Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



1. マーケット・レート

			11月25日	11月26日	11月27日	11月28日	11月29日	Net Chg
Forex	USD/BRL	Spot	2,2840	2,2950	2,3200	2,3190	2,3360	+0,0170
	USD/YEN	Spot	101,61	101,30	102,13	102,25	102,44	+0,1900
	EUR/USD	Spot	1,3551	1,3570	1,3570	1,3573	1,3604	+0,0031
	BRL/YEN	Spot	44,39	44,14	43,85	44,11	43,85	-0,2600
Swap	Dollar Clean	6MTH(p.a.)	1,32	1,46	1,50	1,48	1,40	-0,0808
		1Year(p.a.)	1,70	1,78	1,84	1,82	1,77	-0,0457
	Real Interest	6MTH(p.a.)	10,34	10,31	10,36	10,20	10,22	+0,0170
		1Year(p.a.)	10,80	10,75	10,77	10,55	10,59	+0,0391
Stock	Bovespa		52.264	51.447	51.861	51.847	52.482	+635,66
Bond	CDS Brazil 5y		197,33	201,15	203,00	205,17	205,00	-0,1670
	Global 40		114,350	115,200	115,250	114,950	115,250	+0,3000

* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインディケーションです。実際のレート提示は弊社担当アカウント・オフィサーまでお問い合わせ下さい。



2. 主要経済指標

3. 要人コメント

イベント	予想	実績	前回	
純債務対GDP比	35.0%	35.1%	35.0%	なし
Nominal Budget Balance	-10.7B	-11.5B	-22.9B	
基礎的財政収支	9.1B	6.2B	-9.0B	

4. 週間市況、トピックス

- ・ 今週の為替相場はUS\$1=R\$2.2810で寄り付いた。
- ・ 週初はイラン核協議合意を受けて原油相場が下落、ドルは対主要通貨で上昇した。レアルは寄り付き後週間高値となるUS\$1=R\$2.2780を付けたが、上記を受けて売りに転じ、2.2950まで売り進まれた。
- ・ 翌26日には1986-94年に起きたブラジルのハイパーインフレに関する訴訟問題で最高裁判所で預金者側が勝訴した場合、銀行セクター全体の資本金の25%に相当する1490億レアルを支払うことになる可能性があることが嫌気されレアルは2.30台後半まで続落した。
- ・ 週央には米シンガン大学消費者信頼感指数等が予想を大きく上回る結果となったことから米資産購入縮小懸念が再燃し、ドルは対主要通貨で大きく上昇した。レアルは2.3100まで下値を拡大した後、米祝日を控えてポジション調整と思しきドル買いが見られるとレアルは2.33台まで急落した。マーケット時間終了後に伯中銀は金融政策委員会(COPOM)で、政策金利を0.5ポイント引き上げ10%とすることを全会一致で決め、6会合連続の利上げとなった。
- ・ 翌28日にレアルは週間安値となるUS\$1=R\$2.3430を付けたが、企業による大口の資金流入の噂が聞かれるとレアルはやや買い戻される場面が見られるも、伯中央政府基礎的財政収支が予想を大きく下回ったことが嫌気され、レアルは再び2.33台半ばまで一時急反落した。
- ・ 週末にかけては感謝祭翌日のブラックフライデーを受けて薄商いとなる中、レアルはPTAX決定に向けてのドル買い需要が強くレアルは再びじりじりと下落、結局US\$1=R\$2.3360で越週した。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成されたものですが、その情報の正確性、安全性を保障するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



5.来週発表される主要経済指標

日付	イベント	期間	予想	前回
12/2	FGV CPI IPC-S	nov/30	0.63%	—
12/2	製造業購買担当者指数	Nov	—	50.2
12/2	貿易収支(月次)	Nov	\$500M	-\$224M
12/2	総輸出	Nov	—	\$22822M
12/2	総輸入	Nov	—	\$23046M
12/2	自動車販売台数(ブラジル自動車販売)	Nov	—	330196
12/3	GDP(前期比)	3Q	-0.3%	1.5%
12/3	GDP(前年比)	3Q	2.4%	3.3%
12/3	GDP(4四半期累計)	3Q	—	1.9%
12/4	FIPE消費者物価指数(月次)	Nov	—	0.48%
12/4	鉱工業生産(前月比)	Oct	-0.2%	0.7%
12/4	鉱工業生産(前年比)	Oct	0.4%	2.0%
12/4	PMIサービス業	Nov	—	52.1
12/4	商品価格指数(前月比)	Nov	—	-2.67%
12/4	商品価格指数(前年比)	Nov	—	0.05%
12/5	COPOM Monetary Policy Meeting Minutes			
12/5	自動車生産台数(ブラジル自動車工業)	Nov	—	323776
12/5	自動車販売台数(ブラジル自動車工業)	Nov	—	330203
12/5	自動車輸出(ブラジル自動車工業会)	Nov	—	51808
12/6	FGVインフレ率IGP-DI(前月比)	Nov	0.32%	0.63%
12/6	IBGEインフレ率IPCA(前月比)	Nov	0.59%	0.57%
12/6	IBGEインフレ率IPCA(前年比)	Nov	5.82%	5.84%

6.来週の為替市場注目点

予想相場レンジ : 2.25-2.35

今週は米祝日を控えてレアルは薄商いとなる日が多く見られ、ボラティリティーが高い展開となった。国内では年内最後の伯金融政策委員会（COPOM）が開催され、SELIC金利は市場予想通り 0.50%引き上げられた。声明からはインフレ抑制のため 0.5 ポイントの追加利上げが必要だったことを示す文言がなくなり、引き締めサイクルが終わりに近づいていることを示している可能性がある。しかし市場では来年にかけても利上げサイクルが続くとの意見も残っており、来週の COPOM 議事録まで様子見る投資家が多いだろう。来週は国内では COPOM 議事録に加え、貿易収支や GDP 成長率が注目される。海外でも重要な経済指標を多く控えており、中でも米雇用統計や米 GDP 成長率が大きく注目される。結果次第で早期の量的緩和の縮小が再び意識され、ボラティリティーの高い相場が予想される。米経済指標が大きく予想を上回った場合にはレアルは今週に続いて売り傾向となる可能性があるため、引き続き注意が必要であろう。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したものです。その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A Treasury Department